

# 風越山城(後編)

吉田町相合、美土里町横田

## 編集後記

毎年、恒例の出初式。全消防団員が並ぶと壮観です。いつもは隊列に並ぶ側で見ることはないのですが、今年は写真を撮るので、見ることができました。改めて多くの方に支えられていることがよくわかりました。(森本)

取材で多くの方々にお話を伺う中で、自分の考え方を見直すことが多くあります。また、長年培われた経験やその人ならではの考えを、限られた紙面にできるだけ反映させられるよう、毎月励んでいます。(田村)

## 今月の表紙

安芸高田市障害者基幹相談支援センターでの相談風景。

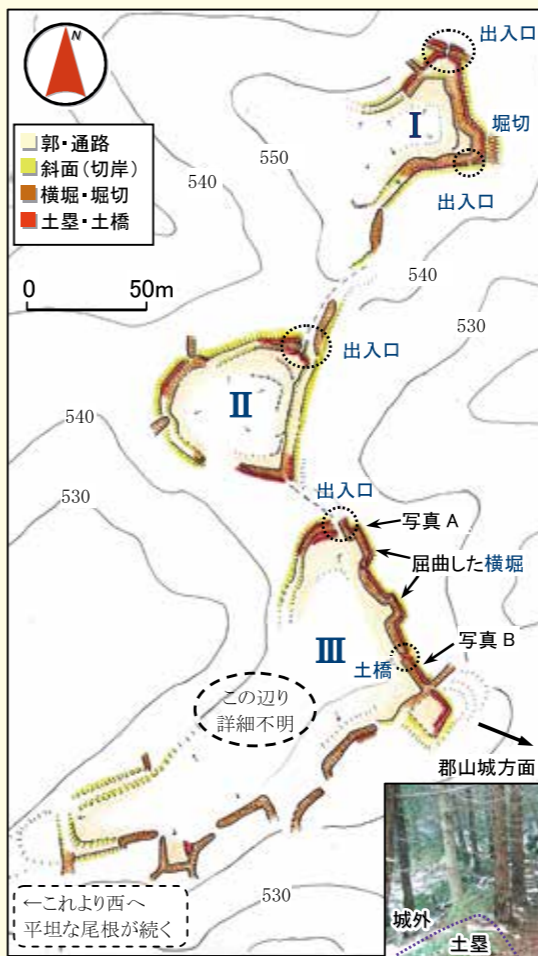
今回はいよいよ風越山城の構造を紹介いたします。極寒の中、雪に阻まれながら調査を敢行し、何とか現状を確認いたしました。しかし、現地は大半が樹木に覆われて先が見えない状態で、調査は困難を極めました。よって、完全には遺構を図化できなかった部分もありますがご了承ください。訪れるにはおそらく市内で最も過酷な、上級者向けの城跡です。

**城跡**：大きくIからIIIに分かれますが、いずれも山頂部のみで遺構が残ります。この城の特徴は、①駐屯地となるI・II・IIIの中央部分が自然地形に近く、あまり整地されていない②横堀や土塁又は細長い通路状の平坦地で全体を囲いこんでいることです。極端に言えば、郭がなく周囲を空堀で囲まれた城です。このような遺構は一般的に陣跡とされていますが、県内においてこのような城跡は殆ど確認されていません。出入口にはいずれも土塁を伴う嚴重な備えですが、I・IIに比べてIIIは横堀が直線的かつ大規模で、土塁土橋もよく残っています。特に、側面から外敵を攻撃するために横堀を意図的に折れ曲げている箇所があり、非常に実戦的な防御施設として注目されます。

**考察**：この①②のような特殊な構造でよく似ているのが、郡山合戦以前の1527年、尼子軍が築いた陣跡である三次市の南山城とハチケ壇城です。とはいっても、これが尼子軍の陣跡の特徴とはいえません。風越山城と同じ1540年の郡山合戦時に尼子軍が吉田に築いた光井山城や青山城は、尾根上に郭を連ねる一般的な山城の構造です。同じ尼子軍の陣跡でのこの違いは築城目的の違いか、駐屯期間の違いか頭を悩ませます。それにしても、ここが大将尼子晴久の本陣であったとすれば、大半の兵はこの寒い山中のどこかで野営したのでしょね。



写真A 鈎の手状に折れるIIIの横堀(南東側より撮影)



風越山城略測図(作図 秋本哲治)



写真B 直線的な横堀(北側より撮影)

## 安芸高田市障害者基幹相談支援センターでの一コマ。

現在、月平均で100件を超える相談が寄せられています



(今月の主な内容)

2~3

安芸高田市障害者基幹相談支援センター